

はじめに





LIVCEP/94-0172/Betty Phiso

## はじめに

「紛争や戦争の原因は幅広く、かつ根深い。それと取り組むには、人権と基本的自由を向上させ、一層の繁栄をはかるための持続可能な経済・社会開発を促進し、困窮を緩和し、また大量破壊兵器の存在と使用を削減するための最大限の努力が必要である。」

——国連事務総長、ブトロス・ブトロス=ガリ、「平和への課題」(1995年)

戦争は他のなにもものにもまして、数多くの子どもや女性の暮らしに打撃を与える。子どもやその家族が砲火にさらされるだけではない。かれらの多くが攻撃の目標にさえなってきたのである。戦争においては、攻撃をまぬがれるものは何もない。聖域も保護区域もないのである。今日の戦争のもっとも際立った特徴は、子どもたちが最大の被害者だということである。

過去10年間だけ見ても、推定200万人の子どもたちが戦争で殺され、その3倍もの子どもたちが重い傷を負ったり、生涯にわたる傷害を被ったりした。そのほかにも無数の子どもたちが恐ろしい戦闘行為を目撃させられたり、暴力を振るうことを迫られたりした。そうした統計の数字以上にショッキングなのは、それらが生み出す広範な影響である。つまり、その結果世界はますます荒廃した道徳的真空のなかに吸い込まれている。それは最低限の人間の価値さえ存在しない世界であり、そこでは子どもたちが虐殺され、レイプされ、負傷し、手足を失い、兵士として搾取され、飢え、極端に苛酷な状況にさらされているのである。

## 子どもに対する攻撃の停止

現代の戦争は、自製の喪失、秩序の崩壊、そして混乱を特徴とし、その背後には、貧困の蔓延と経済の停滞のなかでの政治的闘争や資源獲得のための争いがある。現代の戦争の非情さは、社会革命によって伝統社会を引き裂き、ばらばらにしたことの当然の結果ともいえる。だがその原因が何であろうと、いまや戦争をやめさせるべきときがきた。国際社会は、子どもに対する攻撃を容認することはできない、それを受け入れることはできない、と宣言すべきである。

国連総会は「児童の権利委員会」の勧告に基づいて、1993年に事務総長に対して専門家を指名し、「武力紛争が子どもにおよぼす影響」について調査することを求めた。国連事務総長によって専門家に任命されたグラサ・マシェル（元モザンビーク教育相）は、2年にわたる調査、現地訪問および協議ののちに、1996年に国連総会に対して「**武力紛争が子どもにおよぼす影響**」と題する報告書（文書A/51/306および追加文書1）を提出した。この報告がいわんとしていることは、要するに「子どもたちを戦争から切り離すべきだ」ということである。この報告書は、子どもたちと世界各地で起こる戦争とのかわりをあますところなく明らかにし、政府や国連機関、政府間機関や地域機関、あるいは市民団体や個人に対して多くの勧告を行っている。この小冊子は、戦争が子どもにおよぼす影響について、できるだけ多くの人の理解を深めるために作成したものである。とくにそのなかの行動のための勧告に、焦点をしばっている。ここで取り上げたいいくつかの例は、この報告書のために行われた調査から引用したものである。